



湖の風を受けて走れ—— 「ビワイチ」ツーリズム

国内外から訪れるサイクリストたちに人気の高い琵琶湖一周のサイクリング。
滋賀県が推進する「ビワイチツーリズム」は、自転車を軸とした観光推進により、
交流人口の増加を図り、地域活性化につなげようというもの。
「ビワイチ」の観光コンテンツとしての確立をめざす多様な取り組みの現状や今後の展開について、
滋賀県観光振興局ビワイチ推進室の津田誠司さん、菅原芳明さんに聞いた。



官民一体で推進

サイクリングを楽しもうと、多くの人が訪れる琵琶湖畔。自転車活用推進法が制定され、全国的にサイクルツーリズムが

注目されるなか、滋賀県では自転車活用による観光推進「ビワイチツーリズム」が盛り上がりを見せている。「ビワイチ」とは、もともと地元で「琵琶湖一周」を意味する言葉で、現在では自転車のほか、ランニング、ウォーキング、バスなどでも使われている。

滋賀県観光振興局に



記念碑「琵琶湖サイクリストの聖地碑」(守山市)

「ビワイチ推進室」が設置されたのは、2017年のことだ。県下では以前から、環境への配慮、健康増進、人にやさしいまちづくりなどに自転車を活用しようという

動きがあり、県をはじめ官民連携の「滋賀プラス・サイクル推進協議会」を中心に、サイクリングルートの設定やマップ作成などが行われてきた。

「民間で取り組まれてきた流れのなか、それを行政としてさらに盛り上げていくという考え。官民一体での取り組みが大きな特徴です」と菅原さん。サイクリスト向けのサービスの充実や、積極的な情報発信の成果もあり、18年のビワイチ体験者は10万6千人と、15年の5万2千人から大きく伸びている。

サイクリストのニーズに添えて

民間と連携した取り組みの筆頭に挙げられるのが「サイクルサポ



サイクルサポートステーションでは、空気ポンプの貸し出しなどでサイクリストをサポートする

ートステーション」だ。これは県内のコンビニや飲食店等が協力し、トイレや空気ポンプの貸し出しなどサイクリスト向けのサービスを提供するもの。サイクリストが立ち寄ることで店にもメリットがあ



ると認知され、目標を大きく超える約300カ所が登録されている。「社会貢献としての協力だけでなく、事業として成り立つことを重視しています」と津田さんは強調する。サイクリスト向けに上質なサービスを提供し、地域の事業者が活気づくことで、さらなる受け入れ環境の整備につながる。同様の考えから、レンタサイクル施設も基本的には民間事業者が担う。16年10月、米原駅に設置された「サイクルステーション」も公設民営で成果をあげている。ここではスポーツタイプの自転車のほか、子

サイクリング専用アプリ「BIWAICHI Cycling Navi」



供向けキッズバイクなどさまざまなタイプの自転車を貸し出し人気を集めている。

県では、多様な施策で民間の活性化を後押ししており、その一つが、18年4月から提供を開始したサイクリング専用アプリ「BIWAICHI Cycling Navi」だ。ダウンロード数2万件を超える人気のアプリで、ナビゲーション機能とともに観光情報も充実させ、周辺への立ち寄りを促す。サイクリング目的で訪れる人に、より長時間滞在してもらい、観光や飲食、買い物を楽しんでもらうためだ。

また、霞ヶ浦（茨城県）、浜名湖（静岡県）との3湖連携でイベントや情報発信を行い、サイクリストが相互に行き交う仕掛けづく

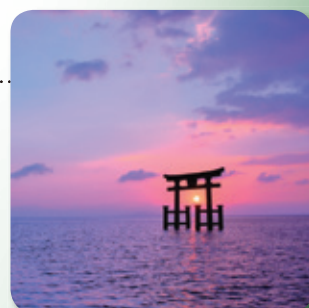


重要文化財建造物が数多く残る「彦根城」

多彩な風景を楽しめる ビワイチコース



琵琶湖の沖合に浮かぶ「竹生島」



近江最古の神社「白鬚神社」。休憩スポットとして最適

大溝港

漁船タクシー

サイクリストの聖地碑
(守山市)

長命寺港

木浜漁港



近江八景「堅田の落雁」で名高い湖上に突き出た仏堂「浮御堂」



古事記にも登場する古社、「日吉大社」



近江商人の本拠地として栄えた「近江八幡」

りも行っており、関東方面のサイクリストを呼び込む好機と意気込む。今後は各地のレンタサイクル、宿泊施設などの事業者や関係者が、各々の取り組みや自転車観光の手法を学びあう機会を作っていく予定だ。

多彩な魅力と楽しみ方を提案

琵琶湖を一周するビワイチコースは約200キロメートルと長距離だが、コースは比較的平坦で、ゆったりと、湖畔に点在する観光スポットをめぐりながら走れるのが特徴だ。ビワイチコース以外にも、内陸部の魅力的なスポットを周遊する8コースを「ビワイチ・プラス」として設定しており、自然、文化、食など地域の多彩な魅力に触れてもらい、県全体がサイクリングで盛り上がることをめざしている。

また、湖上交通と組み合わせ、ビワイチをショートカットで楽し

守山市が社会実験を行う漁船タクシー



もうと、守山市では、人・自転車を漁船に載せて琵琶湖を横断する「漁船タクシー」の社会実験も行っている。同市は琵琶湖沿岸各地へのアクセスの良さを生かし、ビワイチ起点の街としてPRにも力を入れている。

各地で開催されるイベントも魅力的だ。毎年3月に開催される「びわ湖一周ロングライド」が最も大きなイベントで、全国から約2000人が参加し、琵琶湖畔を駆け

にも引き続き取り組んでいく。「ハードの整備とともに、サイクリストを迎える意識づくりも大切。自転車と、歩行者や自動車が互いに尊重し配慮しあい、安心して周遊を楽しんでもらえる環境をつくっていききたい」と津田さんは話す。自転車を通して、国内外から訪れる多くの人が滋賀の自然や文化を楽しみ、人とのふれあいが生まれ、地域が活性化する。そんな「ビワイチ」の理想実現に向けて、官民一体の取り組みは続く。



メタセコイヤ並木(高島市)

「ビワイチ」のさらなる広がりを。来訪者が順調に増加している「ビワイチ」だが、今後はさらなる広がりに力を入れる。海外からの来訪は、県内のあるレンタサイクル施設の利用者数でみると全体の約2割。海外向けの情報発信や、京都の宿泊施設への働きかけなどで伸びが期待される。

本格的なサイクリスト以外の層

への訴求も課題。女性や親子連れなどサイクリング初心者に楽しさを知ってもらうことは、周辺の観光を含めた誘客につながる。また来訪者だけでなく、県民にも自転車を楽しんでもらう。それによって地元の人々が地域の魅力を再発見し、サイクリストへの理解も深まるからだ。

安全面への取り組みは、県が中心となって担う重要なパートナー。ルール・マナーの周知のほか、路面表示・案内標識の充実、路肩の拡幅等による走行空間の整備など